

安全性と使いやすさを求めた

SK-674 10ℓ SK-675 20ℓ ガソリン缶

- 自動車・オートバイ（モトクロス等） ●船舶（水上バイク等）
- 農業機械（耕運機） ●トラクター ●発電機等



注意

- ガソリン缶内部にサビ止め剤を吹き付けていますが、使用上には問題ありません。
- キャップ、給油ノズルの開閉時には、指などをはさまないように十分注意してください。
- 誤った使用方法、火災、地震、水害、その他天災地変、公害、塩害などによる故障及び損傷については如何なる責任も負いかねます。又、ガソリン以外のシンナーや水等の使用は、塗装、パッキン材劣化、サビの原因となりますので、使用をさけてください。
- 屋内、車内、或いは、周辺を汚すおそれのある場所での給油には、ノズルが確実にねじ込まれていることを確認し、万が一、こぼれても周辺が汚れないよう、又は、人体、周辺に危険を及ぼさない処置をした上で、ご使用ください。
- ガソリン缶にガソリンを入れ車等で移動される時は、必ずポリエチレン袋又は、受け皿に置いて保管・移動してください。特にトラック等の荷台にのせて移動する際は、すべり止め（ゴムマット等）を利用して、ガソリン缶底部が損傷しないよう保護してください。



火気厳禁

消防法適合品

第四類 第一石油類 危険等級Ⅱ

使用上の注意

- ガソリン缶には、**規定容量以上**のガソリンを入れないでください。
- ガソリン缶は、給油口が**上向き**になるように常に平らな場所に置いてください。
- ガソリン漏れ防止のため、キャップ、エア調整ネジは**最後まで**確実に締め付けてください。
- ガソリン缶には、**ガソリン以外の物**は入れないでください。缶内部がさびるおそれがあります。
- キャップを外すときは、ガソリン缶を**上向きに平らな場所**に置いてからキャップをゆるめ、中のガソリンがこぼれないことを確認してください。
- ガソリン缶を携帯、移動した場合には、先ずエア調整ネジをゆるめ、**ガソリン缶内の圧力を調整**してから、再びエア調整ネジを**確実に**締め付けてください。
- キャップ、ノズルの**パッキンが劣化**したり、**破損**した場合には、**ガソリン漏れの危険**がありますので、部品を交換してください。
- ガソリン缶の保管には、内容物の有無にかかわらず、**直射日光が当たる場所、火の近く**や転倒しやすい所、密閉した車内、室内には置かないでください。
- 空のガソリン缶を長期間保管する場合には、キャップをゆるめておいてください。パッキンの劣化を軽減する事ができます。
- 長期間使用しなかった場合には、ガソリン缶本体、キャップ、ノズルを**点検**し、それぞれの部品に**異常がないか確認**した後、使用してください。
- ガソリン缶に**ガソリンが付着**した場合、**色落ち**するおそれがありますので、**すぐに拭き取**ってください。

給油の手順と注意

- ①ガソリン缶を給油口が**上向き**になるように**平らな場所**に置いてください。
- ②エア調整ネジをゆるめガソリン缶内の圧力を抜いてください。
- ③キャップをゆっくりと外してください。
- ④ガソリン缶天面のノズル止めよりノズルを外し、給油口に**確実に**取り付けてください。
- ⑤給油ノズルが**まっすぐ**になっている状態で、給油を行ってください。

使用後の注意

- ①キャップが**確実に**締め付けられていることを確認してください。
- ②エア調整ネジが**最後まで**確実に締め付けられていることを確認してください。
- ③ガソリン缶を傾け、**キャップからの漏れのないこと**を確認してください。
- ④ガソリン、灯油、軽油の保管については、ガソリン缶に給油されてから**短時間**で使用してください。
- ⑤長期保存されたガソリン、灯油、軽油は**酸性化が進みエンジンに負担**がかかりますので、使用しないでください。

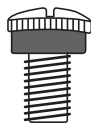
ガソリン缶用補修部品 (SK-674/675)

FP-301 (2機種用)



キャップ(蓋)

FP-401 (2機種用)



エア調整ネジ

FP-302 (2機種用)



エア調整ネジ用
パッキン



給油ノズル用
パッキン



給油口用パッキン

FP-105 給油ノズル(長さ:約325mm)



FP-201 給油ノズル(長さ:約240mm)



重要

ガソリン

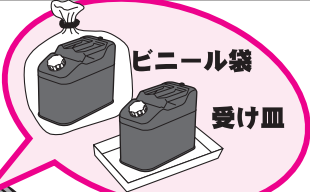
は揮発性の強い危険物です。
下記の要綱は必ず守ってください。

1 給油後は**キャップ・エア抜き**を**しっかり閉めてください**。

しっかり締める

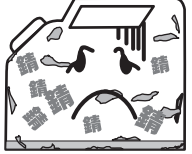


2 ガソリンが入った缶を車に乗せるときは**ビニール袋**もしくは**受け皿**に入れてください。



3 ガソリンにも水分は含まれています。

ガソリンの**長期保存**は缶の**内部が錆びる原因**になります。




4 ガソリンも劣化します。**長期保存したガソリン**は車などに**悪影響**を与える恐れがありますので**使用しないでください**。



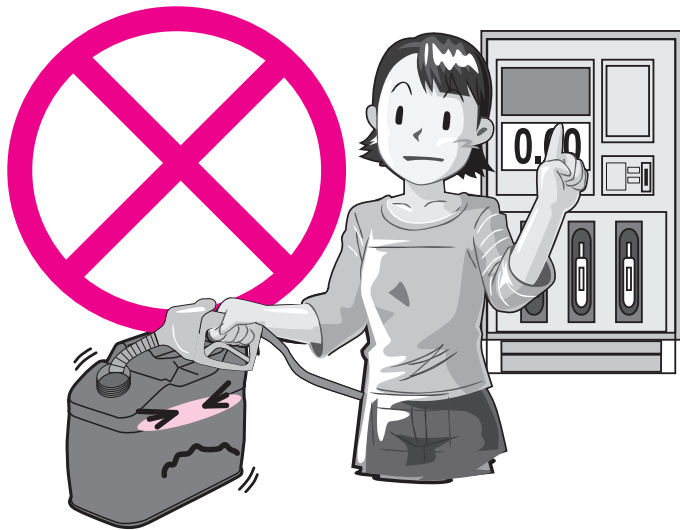
5 少量のガソリンを**残さないでください**。

ガソリンが**気化し、気化圧**で缶が**変形する**恐れがあります。



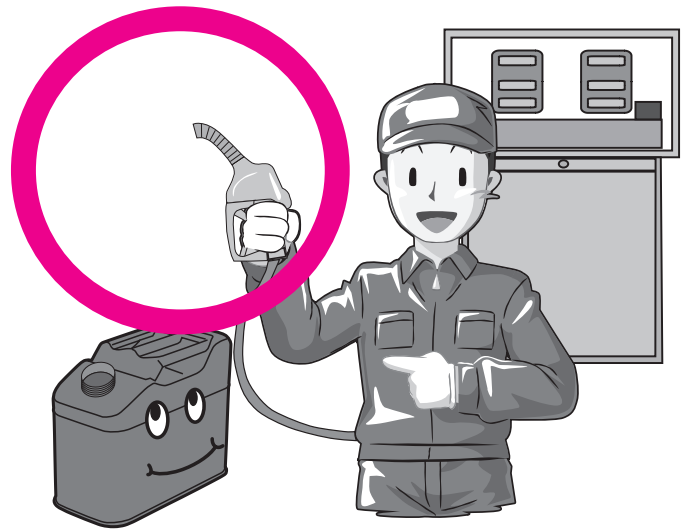
ガソリンスタンドでガソリンや軽油を容器で購入する際の注意事項

NG



セルフスタンドでは自分で入れる事はできません

OK



従業員のいるスタンドで入れてもらいましょう

■保管の危険性について

- ガソリンは、火災の発生危険が極めて高く、火災が発生すると爆発的に延焼拡大するため、ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えてください。
- 軽油は、大量に保管すると、火災の発生危険が高まるとともに、火災が発生すると、大規模な火災となる危険性が高いため、大量保管することは極力控えてください。

■保管について

- 40ℓ未満のガソリン又は200ℓ未満の軽油を、消防法令の基準に適合した容器で、保管することができます。
- 40ℓ以上200ℓ未満のガソリン又は200ℓ以上1000ℓ未満の軽油を保管する場合は、市町村の火災予防条例により、消防機関に届け出ることが必要となります。
- 200ℓ以上のガソリン又は1000ℓ以上の軽油を保管する場合は消防法により、市町村等の許可が必要です。

※総務省消防庁危険物保安室の指導により。

具体的な市町村長等の許可等の手続や市町村の火災予防条例については、お住まいやお勤め先のある自治体へお問い合わせ願います。